

風はるか、秋田藩の羽州街道

②六郷から秋田まで

藩政期の六郷は村の規模が久保田（秋田、湊（土崎）、能代に次いで大きかった。六郷を出た羽州街道は旧国道13号にほぼ沿って西進して大曲市に入る。石堂を過ぎると角間川方面に分岐する追分に達し、街道はこの追分から北にカーブし雄物川右岸の飯田を通り、日の出町を過ぎると旧国道と別れ市街地に入る。

大曲は鎌倉時代からその名が見え、仙北平野の穀倉地帯の中心となる雄物川、丸子川合流点の土地柄、水陸交通の要所として、また商業地として栄えてきた。『享保郡邑記』によると、大曲では毎月、寺町と西土屋館に五日ごとに市が立ち、木綿や茶、麻、塩、油などが交換されていた。また、大曲は宿場町ともなり宿屋も多かったと記録されている。藩主や幕府役人が滞在する本陣は貞享二年（一六

八五）に置かれたが、その建物は六郷にあった佐竹義宣の父、義重の居館を移転したものである。

丸子川を渡り花館に入ると馬の乗り継ぎをする駅馬があり、津軽侯の本陣があった。ここは戊辰戦争の激戦地ともなった。花館から神宮寺に行くには玉川を渡らなければならず、そこには大渡しと小渡し、二つの渡船場があった。賑わっていた。

雄物川と玉川が合流する対岸には神宮寺嶽が屹立している。平安時代の「延喜式」神社帖では最高格式の出羽の式内社のひとつ、副川神社が鎮座していたとされる。また、神宮寺八幡神社は鎌倉時代の棟札によって源頼朝ゆかりの社といわれる。

神宮寺から北橋岡を抜ける街道は現国道と重なり、長沼沿いには「三本杉の一里塚」があって今もその跡が残っている。原形をとどめる一里塚としては秋田県でも随一だが、塚のサイカチは近年の台風で倒れてしまった。

刈和野では街道沿いに農家や商家が立ち並び、現在の刈和野駅側の住宅地は本陣跡や侍屋敷があったその面影を随所に残している。現国道が通る五日町を抜け雄物川の堤防に並行する道は新しく、旧街道と一里塚は河川敷に埋没している。刈和野は大沢郷を通る亀田街道や角館に通じていた刈和野街道の分岐になっていた。

右に黒森山、左に雄物川を見ながら進

1- 古四王神社（大曲市）

奈良時代、日本海沿岸の越の国を平定した「越王」にちなむ。古四王神社としては秋田市内の古四王神社と並ぶ秋田県の代表的な神社のひとつ。

2- 花館村道路元標（大曲市）

幕府巡見使や藩の要人などの通行の際に大いに利用された花館（花立）駅跡跡のそばに建っている道路元標。

3- 『方言修行・金草鞋』第21編より（十返舎一九作）

江戸時代の戯作者の書いた1830年頃の船渡しのようす。久保田（秋田市）から歩を進め「……じんぐうじ はなだてと いふをすぎて かくだて川ふなわたしなり……これより大まがりといふをすぎて 六ごうのしゅくなり」とある。（町立角館図書館蔵）

4- 御役屋蔵跡（神岡町）

秋田藩におさめる貢納米や献納米を一時預かったところ。すぐ裏が、旧雄物川の古川になっていて、川を利用して、船で荷物の積み降ろしが直接できた。現在は「刈穂」の酒蔵が建っている。

5- 峰吉川の旧街道の両側にある常夜燈（協和町）

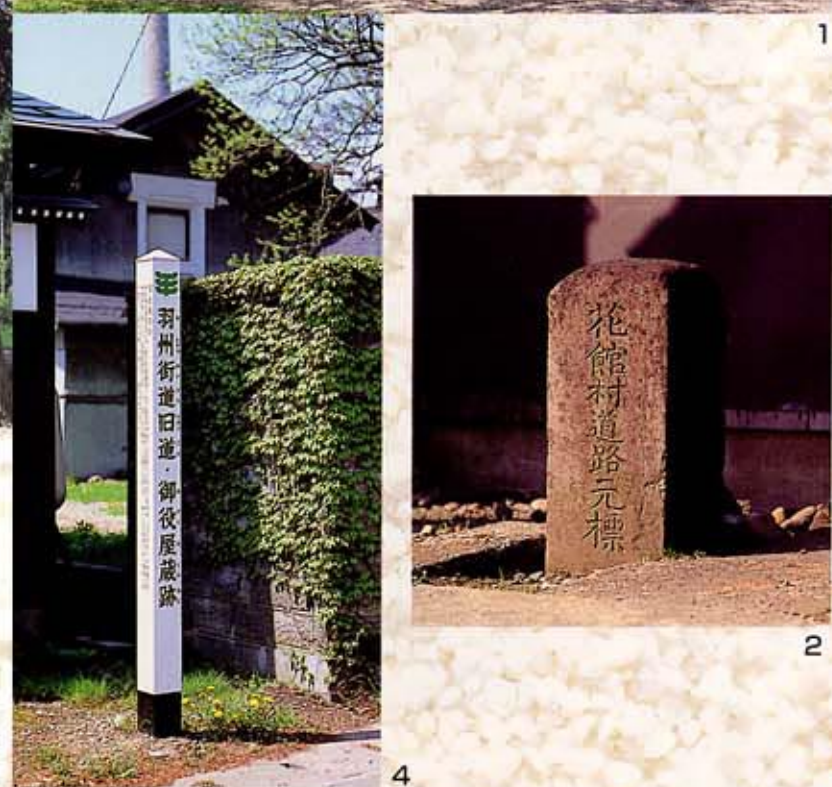
ここは「善知鳥坂一里塚」のあったところで、常夜燈には嘉永元年と彫られている。二手に分かれた右の道は700メートルほどで「白糸の滝」に至る。左の道は上淀川へ至る山道となる。山道に入ったすぐのところにて庚申塔が4〜5基あり、向かい合うように「明治天皇御召換所址」の碑がある。

6- 唐松神社参道の並木道（協和町）

秋田藩3代藩主佐竹義処が現在地に移したという社殿に向かって並ぶ約80本の大杉。

7- 久保田御城下絵図（秋田市）

原図は寛保期ごろの作成と思われる。文政2年 加藤景琴写と表書にあり、南北40センチ、東西53センチの大きさで美しく彩色されている。（秋田県立図書館蔵）



むと高寺観世音のある峰吉川に至り、ここで街道は旧国道を離れ峰の山の峠を越え、上淀川まで森の中を通った。ここには明治天皇がお召替えと休憩したという跡がある。

繫街道（現国道46号）と合う岸館から境に入って、本陣跡の裏手、鬱蒼とした杉並木を下りると安産の神で有名な唐松神社がある。境の街村から合員に出て船岡一の渡から街道は舟沢まで現国道の北側の山中を通った。この峠には太平山三吉さんの石碑が建っている。

路傍に庚申塚が残る舟沢を過ぎて神内現河辺町に街道は入り。坂本で岩見川一の渡に出合う。この後、式内宮崎村といたった和田を通り戸島村に向かう。中の渡となった川原田には一里塚があり、本陣のあった戸島から三の渡を越えて御所野坂にかかった。御所野は佐竹氏が来て以来、道中の便宜を図るため作られた村であった。周りの平野部は新田開発されたところで仁井田（新田）の地名もそれにちなむものである。

現在、大型郊外店が並ぶ二ツ屋付近は縄手と呼ばれる吹きさらしの街道で、その面影は最近まで残っていた。牛島に入る手前には庚申塔が並ぶお茶屋橋があり、そこが久保田城下の出入口となっていた。鍛冶屋や馬具屋があった牛島から秋田町元標のある大町（外町）に入ると秋田南部羽州街道は一応の区切りをつける。